

科目名		必修・選択	単位数	類型
現代の国語		必修	2	共通
教科書 副教材等	増補新版 現代の国語（数研出版） ベストスタイル古文単語 351（尚文出版） 重要漢字コレクション 2800 改訂版（啓隆社）			

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習概要

教科書に掲載された評論文やレポート、公の発行物などの教材を通して、従来のように的確に「読む」だけでなく、「聞く」「書く」「話す」活動を経験することで、的確かつ効果的に表現する方法を学んでいきます。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、そして発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読するのとしなないのでは、理解に大きな差が生まれます。国語に限らず高等学校の各教科は、必ず予習をしてください。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能(①)」、「思考・判断・表現(②)」、「主体的に学習に取り組む態度(③)」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査(中間・期末考査、学力テスト)……………①、②
- ・小テスト……………①
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能(①)	思考・判断・表現(②)	主体的に学習に取り組む態度(③)
評価規準	他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとまりごと）	考查等
一 学 期	<u><思考を深める></u> 【社会と文化】 ・コミュニケーション能力とは何か（内田樹） ・水の東西（山崎正和） 【新しい視点】 ・白紙（森田真生） ・「わらしべ長者」の経済学（梶井厚志）	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明し、自分の考えをまとめる。 ・二つ以上のものを、相違性に着目して比較する対比構造を把握し、日本と西洋という二項対立の考え方を知り、対比を用いた文章を書き、相互評価する。 ・世界中の「わらしべ長者」に似た話に経済学的な普遍性を見いだす筆者の主張を踏まえて自分の考えをまとめ、意見交換する。	学力テスト ① 中間考查
	<u><考えを表す／表現編></u> 【問題を提起する】 ・感情暴走社会の由来（山極寿一） 【対比する】 ・命は誰のものなのか（柳澤桂子）	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し、筆者の考えを演繹して、具体例を挙げる。 ・文章全体の構成をとらえ、問題点を提示しながら自分の考えを書く。	期末考查
二 学 期	<u><思考を深める></u> 【ことばの働き】 ・ものごとことば（鈴木孝夫） 【批評の方法】 ・無意識を滋養する術（ドミニク・チェン） ・『羅生門』の最後の一文（半沢幹一）	・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・批評文の構成を捉え、筆者の考え、立場を理解した上で、『羅生門』の批評文を書く。 ・本文を踏まえて「事実」「推測」「意見」の定義を確認する。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた書き方を理解し、相互批評の実践から、自分の文章の特長や課題を捉え直す。 ・近代日本の文学作品の時代背景を調べ、「歴史的な知識」をもとに、作品の内容について自分の考えを書く。 ・グラフや地図と本文、会話文を比較し、関連づけて宗教について考察したうえで、自分の体験を踏まえて考えを述べる。	学力テスト ② 中間考查
	<u><考えを表す／表現編></u> 【解釈を述べる】 ・事実なのか考えなのか（野矢茂樹） 【背景を調べる】 ・「歴史を学ぶ」ということ 【賛否を述べる】 ・科学と非科学（仲谷敷均）	・本文中で筆者が述べている事実説明や意見を区別して読み取り、筆者の意見に対して賛否の両面から自分の考えを文章にまとめて発表しあう。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、表現方法を工夫する。 ・本文と「ウェルビーイング」に関する資料を参考にしながら、「幸福とは何か」というテーマで意見文を書く。	期末考查
三 学 期	<u><思考を深める></u> 【近代化と人間】 ・ポスト・プライバシー（阪本俊生） 【認識の枠組み】 ・他者を理解するということ（鷲田清一）	・論理的な文章と複数の資料を積極的に読み比べることとで実社会に関する考察を深める。 ・他者との相互理解のためにできることについて、具体的な事例を挙げて話し合い、発表する。	学力テスト ③ 学年末考查